

特集1 InterProfessional Education の観点から見た専門職教育

Three Fields of Professional Education from the IPE-Perspective

本特集は、日本学術振興会科学研究費助成による共同研究（「専門職教育者の IPE（異業種連携教育）基盤型研修プログラムの実践開発研究」、平成26～28年度・挑戦的萌芽・研究代表者渡邊洋子）の成果の一部である。

以下、IPE の観点から各メンバーの専門職教育の実際を共有した研究会の報告内容をまとめた3つの原稿、「保育士および保育士養成をめぐる現状と課題」（佐伯）・「京都大学薬学部6年制教育における多職種連携教育の取り組み」（角山）、「海上保安大学校における IPE 実践」（奥菌）・に続き、法律専門職にとって「もう一つの IPE」とも言える裁判員制度の導入経緯についての検討（種村）、および、本研究に至るこれまでの経緯と本研究の取り組みと課題をまとめたコラム「教育学的観点からみた IPE の意義と可能性の検討に向けて」（渡邊）を掲載する。合わせて、IPW の場として注目される現代アートに関わって、論文（冒頭）として「現代美術作家の自己形成」（中尾）、実践報告として、アメリカの美術館 Halsey Institute of Contemporary Art でのインターンシップの振り返り（渡川）も所収する。

本研究は最終目的として、IPE 基盤型の研修プログラム開発を目指すものであるが、この特集はその第一段階として、「IPE を基盤とする」とはいかなることかという問いを、異業種メンバーで共有・検討する営みの一環に位置づけるものであることを、付記しておきたい。IPE 研究会は今後とも、開かれた議論の場を設けながら、協働で作り上げていくことを目指す予定である。